

本防災教材の作成にあたっては、「BOKOMIスクールガイド」(神戸市、神戸市防災安全公社、NPO法人プラス・アーツ)を参考にさせていただきました。
ここに、神戸における防災教育の取組みを紹介いたします。

震災を教訓とした取組み～神戸市からの報告

阪神・淡路大震災が発生してから20年が経ちました。

神戸市では、この震災を教訓としたさまざまな取組みを行ってまいりました。

特に自主防災組織については、概ね小学校区を基本として組織する「防災福祉コミュニティ(略称:防コミ)」を震災後すぐに立ち上げ、現在市内すべての地区(191地区)で結成済みとなっています。

この自主防災組織の育成策として神戸市では、防災教育支援を通じた活性化を図るべく、小学生を対象とした防災教育支援のためのガイドブック「BOKOMIスクールガイド」を2009年8月に(財)神戸市防災安全公社より発行し、地域に配付を行っています。(現在、同公社の解散により発行していません。)

このガイドブックでは41の防災教育メニューを紹介しており、そのすべてのメニューに「自主防災組織の関わり方」を記載し、地域が学校防災教育に積極的に関与できるよう配慮し、その結果として地域活動に新たな参加者(P T Aや保護者、児童など)を呼び込むことでその活性化を図ろうとするものです。

今回、消防庁が作成したこの防災教材に、そのメニューの一部を取り入れて頂いております。また資料映像としても、神戸市で収集した震災時の映像を提供させて頂いております。

このような神戸の知見といったものを全国にご紹介できることは、震災を経験した神戸として、震災時に多くの方々にご支援頂いた恩返しにもなると考えています。

当市で作成したガイドブックには、防災カードゲームや防災すごろく、防災体操、防災かるたなどといった、子どもたちが自ら考え学ぶことのできる様々なメニューが掲載されています。



「BOKOMIスクールガイド」



内容の一例「防災すごろくGURAGURA TOWN」